

のり子生活相談所  
読者ニュース

2016年1月31日 第206号  
—奥村のり子生活相談所—  
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場1-11  
☎ & F A X 073-427-7121  
Eメール w-jcpken@naxnet.or.jp



二十五日から二十七日、人権・少子高齢化問題等対策特別委員会から、移住戦略の推進や仕事と育児の両立支援、同和問題は人権問題の解決にむけた取り組み、七十歳現役応援センターの取り組み、子育てマイスター制度について、長崎、福岡への県外調査に行つて参りました。途中、寒波の襲来で長崎に行くことはできませんでした。九州の各地で気温は観測史上最低値を記録、水道管凍結破損で断水など報道されています。

寒波襲来の九州で視察  
人権や憲法の常設展示場など必要

沖繩本島も一九五三年統計開始以来はじめてみぞれが観測されたそうです。視察計画も大幅に変更となりましたが、予算審議の二月議会に生かして行きたいと思えます。特に福岡県人権啓発情報センターでは、県民の人権啓発の拠点施設として「同和問題からあ

ゆる国内外の人権問題へ」をテーマに、同和問題を中心とした人権問題に関する歴史や、生活文化を紹介した常設展示室が開設されましたが、憲法との関連が全く述べられていないことに違和感を覚えました。

今改めてすべての差別を許さないという立場から、憲法の立場で考えることが大事だと思えました。憲法に関する常設展示などの取り組みが必要だと強く感じました。(奥村のり子)

甘利大臣よ アマリ延ばさず  
サツサと真実を話してよ!

安倍政権の中でも中枢閣僚はA3(安倍、麻生、甘利)プラスS1(菅)らしい。その甘利明経済再生担当大臣の取柄疑惑でマスコミが騒がしい。甘利氏は2012年の自民党総裁選で安倍氏の選対部長を務めその信頼が厚い。千葉の建設会社が都市再生機構(UR)とのトラブル解決で、国交省への口聞きをした甘利氏に、見返りに少なくとも1200万円渡したといひます。

建設会社は13年8月に甘利氏の事務所まで公設秘書に500万円渡し、また13年11月大臣室で、14年2月に地元事務所2回にわたり50万円ずつ甘利氏に直接渡したといひます。甘利氏は建設会社との面談は認めたが、現金授受は「精査させて下さい」と述べるだけで否定はしませんでした。疑惑は深まるばかりで事実ならば政治資金規正法や、あっせん利得処罰法に違反。現金を受け取れば政治家は3年以下、秘書は2年以下の懲役です。疑いかけられただけでも閣僚も議員も辞めるのが政治家として当然です。FNNの世論調査で76%が「納得できない」と回答。こんな甘利氏が担っているのがTPP(環太平洋連携協定)の責任者で、秘密の連続で「大筋合意」したと言いますが、どう合意したのか怪しいものです。「28日にも説明する」そうですから注目しましょう。(編集室)

12月県議会  
特集 完成!

総カラー版です。積極にご活用ください

安倍政権の悪政からくらしを守れ!

2015年12月県議会特集

2016年度予算で申し入れ  
知事が明言  
「林地開発は許可しない」

2014年度決算に反対

今年も力あわせがんばります!

松山市を視察して

1月19日から松山市などを視察し、ゴミ問題や高齢者福祉などの施策を学びました。今後、和歌山市政に活かしたいと思ひます。



松山市役所前で4人の市議

和歌山市では、今年4月からプラごみの分別収集をやめ、一般ごみとして回収する事になります。市の説明ではプラを焼却する事で熱発電の燃料としたなどの説明でした。また、プラの収集や処理施設への運搬が省かれCO2の発生抑制に繋がるということです。

これまで和歌山市では、ごみの有料化問題など市民の皆さんの積極的な取り組みにより、有料化をストップさせて参りました。

4月から和歌山市のプラごみは一般ゴミになりますが...

大量に排出されているごみは、燃やせばいい、埋めればいいという問題ではありません。いかにしてごみを減らすか、この問題を解決しなければなりません。ごみのリサイクルなどは、ごみを減らす上で重要になりますが、和歌山市のリサイクル率は依然低い水準です。リサイクル率の向上は、ごみの減量や意識の向上に最適です。行政は安易にプラごみを焼却するのではなく、どのようにしてリサイクル率を向上するのか。この点にしっかりと取り組むべきではないでしょうか。

党市議会議員  
中村あさと

- のり子の週刊日誌—主なもの—
- 1月29日 市駅前吉宗像前宣伝、会議、議会
  - 30日 だより検討、労働相談、庁内訪問
  - 31日 生活相談、安保健法の廃止を求め、和歌山の会
  - 1日 医療生協河北支部新春のつどい
  - 2日 地域訪問、会議
  - 3日 団会議、雇用促進住宅調査
  - 4日 きのくに子どもの村学園視察、生活相談

